

- 国語科の授業のアイデアを広げたい!
- 具体的な実践事例を知りたい!
- 授業の導入に使える小話はないだろうか?

そんな先生方のために、秀学社国語科通信シリーズをスタートします。

ICTを活用した スローリーディングで 生徒の思考を深める

東京都東村山市立東村山第二中学校

人見 誠

国語科におけるICT活用の現状

GIGAスクール構想が提唱され、ICTの効果的な活用が急務となっていて、現在の国語科におけるICTの主な活用方法としては、次のようなものが挙げられる。

- ・ 資料を掲示する。
- ・ 検索機能を用いて生徒に調べ学習を行わせたり、辞書の代わりとして活用させたりする。
- ・ ホワイトボードや模造紙の代わりとして活用させる。

ICTを活用し、思考を深める授業の提案

確かに、今までと比べて授業の効率化を図ることができるようになった。しかし、これらは今まで他の媒体を使用していたものをデジタルに置き換えただけであり、本当の意味でICTの良さを十分に活用しているとは言えない。そこで今回は、生徒同士の意見交流や自分の考えをまとめる場面で紙ベースのワークシートとタブレットPCを併用することで、生徒の思考を深めさせることをねらいとした実践例を紹介する。

授業の実際

東京都中学校国語教育研究会の月例研究会において、定番教材である米倉齊加年の「大人になれなかつた弟たちに……」を題材として以下のような研究授業を行った。今回は「言葉に注目して文学を読ませる」ことを単元全体のねらいとし、各時間のねらいと併せて大型提示装置に示して確認しながら授業を進めることとした。

(1) 単元の流れ

- ① 言葉に注目して作品を読ませ、気になる記述や表記から「なぜそのような書き方になっているのか」を考えさせ、たうえで、物語の展開や主人公の心情が隠されている描写を見つけさせる。
- ② ワークシートに、①における自分の考えを書く。このとき、「なぜそう考えたのか」という理由を明確にさせると、最後に自身の考えの変容がわかりやすくなる。
- ③ ICTを使用し、②を共有ファイルに書き込み、班の中で考えの共有を図る。今回は、共有の場面において他者の考えに対する意見もファイル上に記録させた。

